

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	1年次	1単位 (0-2)	専門科目必修科目
担当教員			
ポドリヤク・ナタリヤ			
授業形態：演習／遠隔授業の可能性あり	ナンバリング：EET3131111		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 保育の場で、子どもが安全で健康に生活するために必要な知識と技術の習得を図る。</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点： 健康の定義を理解し、乳幼児期の心と体、運動発達などの健康課題を説明できる。また、乳幼児の体の発達的特徴を説明できる。 技能の観点： 乳幼児期の事故の実態および安全管理と安全教育の留意点を議論することができる。加えて保育の場における幼児期の怪我の特徴や病気の予防について、適切な援助や指導できる。 態度の観点： 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。さらに生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。</p>
授業の概要	<p>保育の現場においては、子どもの『健康』と『安全』は極めて重要な事項である。本講は、保育者として幼児の発育・発達をどのように考えるべきかを学ぶ機会としたい。また、子どもの心身を健康に育成し、子ども自身が健康で安全な生活を形成できるようになるために必要な指導・援助に関する知識と技術を学ぶ。</p>
授業計画	<p>第1回 「健康」とは何か？～子どもに対する健康教育の意義～ 講義の内容、講義の進め方、評価方法等についてのオリエンテーションを行う。そして、「健康」とは何か？幼児期における健康について学習する。</p> <p>【事前学習】 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の領域「健康」のねらいと内容について教科書のpp. 1-15を学習する。(2時間) 【事後学習】 今回の講義の内容について振り返りコメントを書く。(1.5時間)</p> <p>第2回 乳幼児の心身の健康の現状と課題(教材研究・立案) 現代の子どもの健康生活スタイルの現状と問題点について学び、その改善のための保育者に求められる内容についてグループで考え、発表する。</p> <p>【事前学習】 現代の子どもの健康課題としてどのようなものがあげられているか調べ、自らの考えをまとめておく。2時間) 【事後学習】 今回の講義の内容を振り返りコメントを書く。(1.5時間)</p> <p>第3回 食育の推進 保育現場における食育の内容について学ぶ。その後、事例も持ちながら食育の内容、指導方法について理解し、具体的な食育の実践について構想を練る。</p> <p>【事前学習】 教科書のpp. 40 - 56を読み、保育の現場で行われている食育にどのようなものがあるか調べる。(2時間) 【事後学習】 今回の講義の内容について振り返りコメントを書く。(1.5時間)</p> <p>第4回 乳幼児の心身の発達と特徴 子どもの心身の発育・発達とその特徴について学び、子どもの健全な発達のために必要な保育者の働きかけについて理解する。</p> <p>【事前学習】 教科書のpp. 19-27を読み、乳幼児期の心身の発育・発達の特徴について調べる。(2時間) 【事後学習】 乳児期と幼児期の心身の発達の違いについて復習する。(2時間)</p> <p>第5回 乳幼児の安全管理 保育の場における発生している怪我・事故について知る。その他、事故の予防と応急処置の際の注意について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 教科書のpp. 69-74、67-181を読み、過去と比べて、現代の子どもの怪我や事故の状況がどのように変化しているかについて調べる。(2時間) 【事後学習】 それぞれの応急処置について復習し、練習を行う。また、保育の現場では、事故が起らないようにどのような安全教育が行われているか調べる。(1.5時間)</p> <p>第6回 乳幼児の安全教育の指導法(指導案作成) 子ども遊びの安全管理と安全教育について知る。また、保育の場における安全教育の指導法について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 教科書のpp. 69-85を読み、保育の場におけるどのような安全教育が行われているか調べる。(2時間) 【事後学習】 各グループでテーマを決めて、模擬保育の準備と指導案の作成を行う。(1.5時間)</p> <p>第7回 安全教育の指導実践(模擬保育の準備：教材作成) 子ども遊びの安全管理と安全教育について確認する。グループで話し合い、保育の場における安全教育の指導計画を準備する。</p>

第8回	<p>【事前学習】教科書のpp. 69-85を読み、保育の場におけるどのような安全教育が行われているか調べる。(2時間)</p> <p>【事後学習】各グループでテーマを決めて、模擬保育の準備と指導案の作成を行う。(2時間)</p> <p>安全教育の指導実践(模擬保育実践と評価)</p> <p>子どもの健康を守るために、健康管理や安全教育について指導案を基に模擬保育を実践する。その後、各グループで評価を行い、その内容も踏まえながら健康保育や安全教育の指導方法等についてまとめを行う。</p> <p>【事前学習】保育実践の中で行われるPDCEがどのようなプロセスで行われているか調べる。(2時間)</p> <p>【事後学習】実践を評価する方法とその意義について、各自で整理しておく。(2時間)</p> <p>定期試験は実施しない。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>保育内容「健康」遊びや生活から健やかな心と体を育む(重安智子・安見克夫著、ミネルヴァ書房)</p> <p>幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)</p> <p>幼稚園教育要領解説(平成30年3月告示 文部科学省、フレーベル館)</p>
参考書	<p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館)</p> <p>保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)</p> <p>保育所保育指針解説(平成30年3月告示 厚生労働省、フレーベル館)</p> <p>その他、必要に応じて資料を配付する。</p>
評価方法	<p>内容確認テスト40%、指導案20%、フループ活動(発表の準備、発表の出来具合、振り替えコメント)40%</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀(A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優(B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良(C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可(D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可(F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠(K) -：出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。</p> <p>【○】2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>【○】3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【 】4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。</p> <p>【 】5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(保育)の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>学生が主体となって保育に係る実践力を身に付けることが重要な目的である。演習(発表)主体的に参加すること。各種連絡は、Microsoft Teamsや掲示版等を用いて行うことがある。必ず確認すること。詳細は講義の中で指示・説明します。</p>
オフィスアワー	<p>毎週月曜日：3限目 西3-10研究室</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>課題は、授業内で返却する。小テストにおけるコメントを行う。</p>

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期・後期	1年次	1単位 (0-2)	専門科目必修科目
担当教員			
天願 順優			
授業形態：演習／遠隔授業の可能性あり	ナンバリング：EET3131112		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 領域「人間関係」の指導の基礎となる理論について理解する。</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：領域「人間関係」の指導の基礎となる理論について、乳幼児期の人間関係の発達について関係発達論的視点から学び、園生活をとおして他者との関係や集団との関係の中で子どもの人と関わる力が育つことを理解する。 技能の観点：乳幼児期の人間関係の発達について基礎的な理論を理解し、適切に乳幼児の人間関係の育ちを援助できる。 態度の観点：現代の子どもと人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について学び、保育で保障すべき内容に関する知識について理解する。また、子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代的課題について理解し、保育者としての態度を身に付ける。</p>
授業の概要	<p>幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に示されている領域「人間関係」のねらい及び内容、内容の取扱いについて理解し、乳幼児期の人間関係の発達について学ぶ。また、子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代的課題について理解する。 幼児教育・保育現場の実践事例をもとに、園生活における関係発達論的視点から乳幼児期の人間関係の発達について理解する。また、保育場面の写真を見て、討議を行うことを通して、多角的に人間関係の育ちを捉える力を養う。</p>
授業計画	<p>第1回 現代社会と子どもの人間関係（遠隔の場合：Microsoft Teams を利用） 現代社会と子どもの人間関係について理解する 【事前学習】テキスト第1章（pp.13-20）を読んでおく。（60分） 【事後学習】現代社会と子どもの人間関係についてまとめる。（90分）</p> <p>第2回 0～2歳児における人間関係の発達（遠隔の場合：Microsoft Teams を利用） 0～2歳児における人間関係の発達について理解する。 【事前学習】テキスト第5章～7章の各年齢（0, 1, 2歳児）について読んでおく。（60分） 【事後学習】0～2歳児における人間関係の発達についてまとめる。（90分）</p> <p>第3回 幼児期の遊びや生活の中で見られる人と関わる力の育ち（遠隔の場合：Microsoft Teams を利用） 幼児期の遊びや生活の中で見られる人と関わる力の育ちについて理解する。 【事前学習】テキスト第3章3節「人とかかわる力は、どのように育ち、どう育むのか？」（pp.41-42）について読んでおく。（120分） 【事後学習】幼児期の遊びや生活の中で見られる人と関わる力の育ちについてまとめる。（120分）</p> <p>第4回 乳幼児期の自立心の育ち（遠隔の場合：Microsoft Teams を利用） 乳幼児期の自立心の育ちについて理解する。 【事前学習】幼稚園教育要領に記載されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の「自立心」について読んでおく。また、テキスト第8章「『わたし』が育ち、自立に向かう3歳児」（pp.97-100）の自立心に関する内容について読んでおく。（120分） 【事後学習】乳幼児期の自立心の育ちについてまとめる。（120分）</p> <p>第5回 幼児期の協同性の育ち（遠隔の場合：Microsoft Teams を利用） 幼児期の協同性の育ちについて理解する。 【事前学習】幼稚園教育要領に記載されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の「協同性」について読んでおく。また、テキスト第10章（pp.119-122）で紹介されている事例を読んでおく。（120分） 【事後学習】幼児期の協同性についてまとめる。（120分）</p> <p>第6回 乳幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち（遠隔の場合：Microsoft Teams を利用） 乳幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ちについて学ぶ 【事前学習】幼稚園教育要領に記載されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の「エ道徳性・規範意識の芽生え」について読んでおく。また、テキスト第13章3節の「規範意識の芽生え」（p.161）と「道徳性の芽生え」（p.162）を読んでおく。（120分） 【事後学習】乳幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ちについてまとめる。（120分）</p> <p>第7回 乳幼児期の人間関係の広がり・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（遠隔の場合：Microsoft Teams を利用） 乳幼児期の人間関係の広がり・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について学ぶ 【事前学習】幼稚園教育要領の保育内容「人間関係」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の「オ 社会生活との関わり」について読んでおく。また、テキスト第1章第3節「人間関係はどう育つか？」（pp.17-18）を読んでおく。（120分） 【事後学習】乳幼児期の人間関係の広がり・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について学ぶについてまとめる。（120分）</p> <p>第8回 幼児期に育みたい資質・能力と人間関係－集団関係の成り立ち、人間関係の展開と進展のプロセス（遠隔の場合：Microsoft Teams を利用） 幼児期に育みたい資質・能力と人間関係－集団関係の成り立ち、人間関係の展開と進展のプロセスについて学ぶ 【事前学習】幼稚園教育要領の「育みたい資質・能力」について読んでおく。また、テキスト第</p>

	<p>11章1節の「個人と集団の関係」(p.133)を読んでおく。(120分) 【事後学習】幼児期に育みたい資質・能力と人間関係―集団関係の成り立ち、人間関係の展開と進展のプロセスについてまとめる。(120分)</p> <p>定期試験は実施しない。</p>
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/> 5) 実践的PBL <input type="checkbox"/>
テキスト	子どもと保育者でつくる人間関係「わたし」から「わたしたち」へ(横山真貴子〔編者〕、教育情報出版) 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼稚園教育要領解説(平成30年3月告示 文部科学省、フレーベル館)
参考書	幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 保育所保育指針解説(平成30年3月告示 厚生労働省、フレーベル館) 学生
評価方法	課題・演習内容(60%)、授業への参加・貢献度(40%)
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 ※遠隔授業の場合、ルーブリックについて変更を行う場合がある。詳細は講義内で説明。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀(A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優(B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良(C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可(D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可(F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠(K) -：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【 】1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【○】2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を实践する態度を追求する。 【 】3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【 】4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【○】5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(保育)の学位を授与する。
履修上の注意	保育現場の事例を主に検討しながら、対話形式で講義を進めていく。事前事後学習を行いながら、積極的に自らの意見を伝え合うこと。毎回、授業の最後に振り返りの時間をもち、自ら学んだことをまとめる力を身につけること。
オフィスアワー	何か質問等があれば、メールで対応します。
課題に対するフィードバック方法	課題及びレポートは、評価後に返却する

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	1年次	1単位 (0-2)	専門科目 必修科目
担当教員			
照屋 建太			
授業形態：演習／遠隔授業の可能性あり	ナンバリング：EET3131113	※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを用いる。	
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 領域「環境」の基礎的理解</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：乳幼児を取り巻く環境の諸側面と現代的課題、乳幼児の発達における環境と相互作用の重要性を理解することができる。幼児の身近な自然環境との関わりにおける思考・科学的概念の発達について基礎的な知識を身につける。幼児期の身近な環境との関わりで標識・文字等、情報・施設との関わりでの発達を理解することができる。 技能の観点：乳幼児期の環境を通じた発達や経験を通じた学びの過程、思考・科学的概念の発達、標識・文字等、情報・生活との関わりでの発達の特色を説明できる。 態度の観点：乳幼児の環境について積極的に考え、意見交換に参加することができる。意見交換を通して、他人の意見を尊重し協調することができる。</p>
授業の概要	この授業では、領域「環境」の指導で必要となる感性について実践を通して養い、教育内容に関する知識・技能を身につける。特に領域「環境」の指導の基盤となる、現代の乳幼児を取り巻く環境とその現代的課題、乳幼児と身近な環境との関わりでの発達等について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、乳幼児を取り巻く環境の現状とその課題、ESDやSDGsについて（情報機器の活用）※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 乳幼児期における保育環境の課題、ESDやSDGsの意義を考える。そして、環境について具体例を考え理解を深める。 【事前学習】保育におけるESDやSDGsについて調べておくこと。（30分） 【事後学習】今回の講義をノート等にまとめておく。振り返りコメントを書く。（30分）</p> <p>第2回 乳幼児の認知的発達と基本的生活習慣、環境との関わり ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 乳幼児期における認知的発達について理解する。基本的生活習慣の意義を考える。 【事前学習】保育における認知的発達や基本的生活習慣について自らの考えをまとめておくこと。（2時間） 【事後学習】今回の講義をノート等にまとめておく。振り返りコメントを書く。（2時間）</p> <p>第3回 乳幼児の身近な自然との関わり（植物） ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 乳幼児期における環境としての植物のあり方を考える。保育活動において植物との関わりについて考える。 【事前学習】自らの身近な植物との関わりについて考えをまとめておくこと。（2時間） 【事後学習】今回の講義をノート等にまとめておく。振り返りコメントを書く。（2時間）</p> <p>第4回 乳幼児の身近な自然との関わり（動物） ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 乳幼児期における環境としての動物のあり方を考える。保育活動において動物との関わりについて考える。 【事前学習】自らの身近な動物との関わりについて考えをまとめておくこと。（2時間） 【事後学習】今回の講義をノート等にまとめておく。振り返りコメントを書く。（2時間）</p> <p>第5回 身近な自然環境について考える（キャンパス周辺の探索活動） ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 散歩の観点についてキャンパス周辺の探索行動を通して理解する。 【事前学習】自らの身近な自然（安全環境）について考えをまとめておくこと。（2時間） 【事後学習】今回の講義をノート等にまとめておく。振り返りコメントを書く。（2時間）</p> <p>第6回 身近な環境から自然散策マップの作成（教材研究） ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 自然散策マップについてキャンパス周辺の探索行動を通し作成する。 【事前学習】安全環境を考えた身近な自然散策マップについて考えをまとめておくこと。（2時間） 【事後学習】今回の講義をノート等にまとめておく。振り返りコメントを書く。（2時間）</p> <p>第7回 乳幼児の数量や図形との関わり ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 乳幼児の数量や図形との関わりについて理解し、具体例と環境構成について考える。 【事前学習】身近な数量や図形について自らの考えをまとめておくこと。（2時間） 【事後学習】今回の講義をノート等にまとめておく。振り返りコメントを書く。（2時間）</p> <p>第8回 乳幼児の標識や文字、情報・生活との関わり（情報機器の活用） ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 乳幼児の標識や文字、情報・生活との関わりについて理解、具体例と環境構成について考える。 【事前学習】身近な標識や文字等の生活との関わりについて自らの考えをまとめておくこと。（2時間） 【事後学習】今回の講義をノート等にまとめておく。振り返りコメントを書く。（2時間）</p> <p>第9回 定期試験は実施しない。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p>

	4) 初年次教育 5) 実践的PBL 【 】【 】
テキスト	コンパクト版 保育内容シリーズ「環境」(2018年, 大沢裕・野末晃秀, 一藝社) 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼稚園教育要領解説(平成30年3月告示 文部科学省, フレーベル館) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 保育所保育指針解説(平成30年3月告示 厚生労働省, フレーベル館) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省, フレーベル館) その他, 必要に応じてプリントを配付する。
参考書	フィールドガイド沖縄の生きものたち 改訂版(2012年, 沖縄生物教育研究会編, 新星出版) その他, 必要に応じて紹介する。
評価方法	まとめのレポート(50%), 振り返りのコメント(40%), 受講態度(10%)
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 ※遠隔授業の場合、ルーブリックについて変更を行う場合がある。詳細は講義内で説明。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀(A) 90点以上: 到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優(B) 80点~90点未満: 到達目標を十分に達成している 良(C) 70点~80点未満: 到達目標をある程度達成している 可(D) 60点~70点未満: 到達目標を最低限達成している 不可(F) 60点未満: 到達目標を達成していない 欠(K) - : 出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【 】【 】1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【○】2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 【 】【 】3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【 】【 】4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【○】5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(保育)の学位を授与する。
履修上の注意	課題の提出については、様式と期日を必ず守ること。遅れた場合は、受け取らない。 事後学習(振り返り)のコメントをMicrosoft Teamsから提出すること。(200字以上) ※遠隔授業の場合、Microsoft Teams等で提示する資料や課題を必ず確認すること。Microsoft Teamsにて授業を実施する回は、授業開始時にはスマートフォンやPCで参加できるよう準備すること。
オフィスアワー	(前期) 毎週月曜日 2限目 照屋研究室(西研3-9) (後期) 毎週水曜日 2限目 照屋研究室(西研3-9) ※遠隔授業期間においては、Microsoft Teams, メール等を利用し相談を行う。(アドレス: teruken@oc.jc.ac.jp) ※上記時間外は、Microsoft Teamsチャット機能やメール等を利用し予約をしてください。
課題に対するフィードバック方法	提出されたレポート等の課題は、演習最終日に返却する。 ※遠隔授業の際は、Microsoft Teamsを使用する。

講義科目名称： 子どもと言葉

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	1年次	1単位 (0-2)	専門科目 必修科目
担当教員			
平中 尚子			
授業形態：演習／遠隔授業の可能性あり	ナンバリング：EET3131114		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身に付ける。</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：人間にとっての言葉の意義や機能を理解し、乳幼児の言葉の発達過程や言葉に対する感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。 技能の観点：言葉に対する感覚を豊かにする実践や児童文化財の意義について、乳幼児の発達の姿と合わせて説明できる。児童文化財についての実践技術の基礎を身に付ける。 態度の観点：言葉の楽しさや美しさに気づき、言葉に対する感覚を豊かにする実践についてグループワーク等を通して考えを深めることができる。児童文化財を活用した実践に積極的に取り組むことができる。</p>
授業の概要	<p>「言葉」の意義と領域「言葉」のねらい及び内容について理解し、幼児が遊びや生活を通して言葉を獲得していく過程について学ぶ。また、幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにするための遊びや児童文化財について学び、環境や援助について実践技術の基礎を身につける。本講義では、幼稚園及びこども園での実務経験のある担当教員が、実務経験を活かし、幼児期の言葉の発達や保育実践について具体的事例をもとに解説する。また、映像記録等のICTの活用や、グループ協議・模擬保育などのアクティブ・ラーニングを通して、幼児期の「言葉」について理解を深めていく。</p>
授業計画	<p>第1回 「言葉」とは何か？～人間にとっての言葉の意義と機能～ 人間にとっての「言葉」の果たす役割を理解する。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】教科書を読んで言葉の機能について調べる。(30分) 【事後学習】言葉の働きを具体的に考えノートにまとめる。(30分)</p> <p>第2回 子どもは、言葉をどのように獲得するのか？～子どもの言葉の発達過程：誕生から3歳まで～ 0・1・2歳児における言葉の発達について学ぶ。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】0・1・2歳児の発達過程を調べ、ノートにまとめる。(2時間) 【事後学習】0・1・2歳児の発達を踏まえ、読み聞かせをしたい絵本について調べる(3時間)</p> <p>第3回 子どもは、言葉をどのように獲得するのか？～子どもの言葉の発達過程：3歳から5歳、書き言葉習得まで～ 3・4・5歳児における言葉の発達について学ぶ。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】3・4・5歳児の発達過程を調べ、ノートにまとめる。(2時間) 【事後学習】3・4・5歳児の発達を踏まえ、読み聞かせをしたい絵本について調べる(3時間)</p> <p>第4回 領域「言葉」～ねらいと内容、幼児期のおわりまでに育てほしい姿「言葉による伝え合い」～ 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指新における保育内容としての領域「言葉」を理解する。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】領域「言葉」におけるねらいと内容を調べる。(1時間) 【事後学習】幼児期のおわりまでに育てほしい姿「言葉による伝え合い」についてノートにまとめる。(2時間)</p> <p>第5回 「言葉に対する感覚」とは何か？～言葉の美しさ、楽しさを感じよう(演習)～ 言葉と想像力との関係や言葉を育むための保育者の関わりについて学ぶ。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】領域「言葉」における言葉に対する感覚について調べる。(1時間) 【事後学習】言葉を育むための保育者の関わりについてノートにまとめる。(2時間)</p> <p>第6回 言葉に対する感覚を豊かにする実践～言葉遊びを実践してみよう(演習)～ 言葉を育む「言葉遊び」や「ごっこ遊び」を実演し意義を考える。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】言葉遊びやごっこ遊びについて調べる。(1時間) 【事後学習】読み聞かせしたい絵本を調べ、絵本カードにまとめる。(3時間)</p> <p>第7回 言葉を育て、想像する楽しさを広げる「児童文化財」とは何か？～子どもにとっての「児童文化財」の意義～ 児童文化と地域文化について学ぶ。また、沖縄の昔話について素話を発表し、グループ討議をする。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】沖縄の昔話を調べ、口演できるように練習する。(3時間) 【事後学習】口演について振り返り(声量・表情・身振り)、感想を書いて提出する。(1時間)</p> <p>第8回 言葉を育て、想像する楽しさを広げる「児童文化財」を用いた実践～子どもと一緒に絵本(物語・紙芝居など)を読もう(模擬保育)～ 絵本の読み聞かせの意義について学び、絵本の読み聞かせの模擬保育を行う。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】読み聞かせしたい絵本を調べ、読み聞かせの指導案を作成する。(3時間) 【事後学習】絵本の読み聞かせを振り返り、指導案に評価・反省を記入して提出する。(1時間) 定期試験は実施しない。</p>

授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/> 5) 実践的PBL <input type="checkbox"/>
テキスト	『コンパス 保育内容 言葉 第二版』内藤和美・新井美保子（編著）建帛社 2018年
参考書	幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 幼稚園教育要領解説（平成30年3月告示 文部科学省、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 保育所保育指針解説（平成30年3月告示 厚生労働省、フレーベル館） その他、授業中に適宜資料を配付する。
評価方法	授業への参加度（グループ活動、発表、模擬保育等）50%、最終レポート（授業での学びの振り返りと今後の展開）25%、絵本カード作成（絵本の選書と内容分析）25%
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 ※遠隔授業の場合、ルーブリックについて変更を行う場合がある。詳細は講義内で説明。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) -：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【 】 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【○】 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 【 】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【 】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【○】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	提出物は期限厳守、実技は必須とする。 学生としての本分と保育者としての自覚に基づき、自身が言葉を豊かに話せるよう努める。
オフィスアワー	毎週*曜日*限目 平中研究室（西研2-8）
課題に対するフィードバック方法	課題やプリントは、評価後に返却する。

講義科目名称： 子どもと音楽表現

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	1年次	1単位 (0-2)	専門科目 必修科目
担当教員			
津下 美奈子			
授業形態：演習／遠隔授業の可能性あり	ナンバリング：EET3131115		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 幼児の表現活動を支援するための、知識・技能・表現力を身に付ける。</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成について理解する。 技能の観点：演習を通して表現することの楽しさを実感すると共に、楽しさを生み出す要因 について考えることができる。 態度の観点：領域「表現」の位置付けを理解し、幼児の「表現」を支えるための感性を豊かにする。</p>
授業の概要	<p>幼児の表現活動を支援するための、知識・技能・表現力を身に付ける。また、クラスメイトとの演習や発表を通し、協働して表現することや、他者の表現を受け止め共感することを体験し、幼児の表現活動を展開できるようにする。</p>
授業計画	<p>第1回 領域「表現」について—自分自身のこれまでの「表現」を振り返る 【事前学習】 保育指針・幼稚園教育要領の領域「表現」を熟読しておく。(2時間) 【事後学習】 グループのメンバーとのやり取りが多くなるので、関係を深める。(2時間)</p> <p>後期第1回目の授業となるので、第1回～第8回までの講義内容の概要を説明し、この授業での学びがアクティブラーニングであることと、実践を踏まえたPBL(Problem Based Learning ⇒問題解決型学習法)でグループ活動をしながらかんでいくので、グループ分けをする。</p> <p>第2回 環境との対話—学内や生活の中にある音探し 【事前学習】 自宅から大学までの通学路に於いての音の気付き。(2時間) 【事後学習】 他グループの発表をまとめ、比較してみる。(2時間)</p> <p>学内における学び手である学生に、どの様な環境が作られているか、色々な音に関してグループで話し合う。また、オノマトペを使って音を言葉で表現してみる。グループでまとめその日の発表をする。</p> <p>第3回 身の周りの音・声・楽器による音遊び—声や楽器等も用いた即興表現 【事前学習】 手作り楽器にどんなものがあるか調べ材料を準備する。(2時間) 【事後学習】 講義を振り返り、グループで絵本を1冊探しておく。(2時間)</p> <p>集めた材料で、音階を作って演奏してみる。その音階を使って簡単な童謡を練習してグループごとに発表する。</p> <p>第4回 イメージを音で表現—心情や情景を音に 【事前学習】 チョイスした絵本をグループ全員が声に出して練習しておく。(2時間) 【事後学習】 他のグループの良かったところ、自グループの改善点を見出しておく。(2時間)</p> <p>絵本の中の印象に残ったところを決めて、効果音や第3回で使った手作り楽器を用いて創作し、グループ協働して発表する。</p> <p>第5回 音・歌遊び—わらべうたを用いて 【事前学習】 わらべ歌を3曲(内、1曲は沖縄のわらべ歌)各自で探して練習しておく。(2時間) 【事後学習】 沢山出たわらべ歌を整理し、歌えるようにする。(2時間)</p> <p>集めたわらべ歌をグループで話し合い、5曲(内、2曲沖縄わらべ歌)にまとめ練習し合い、発表する。</p> <p>第6回 小学校低学年「音楽」との連続性 【事前学習】 小学校低学年(1・2年生)の音楽教材を調べる。(2時間) 【事後学習】 領域と教科の違いを理解する。(2時間)</p> <p>領域「表現」から教科「音楽」へと移行していくために保育者が考えなければならない連続性について考えていく。</p> <p>第7回 発表に向けて—音楽表現に関する発表をグループで考える 【事前学習】 今まで発表してきたことをまとめておく。(1時間) 【事後学習】 グループにて本日課題となった発表の練習を行う。(1.5時間)</p> <p>就学前の子どもたちに必要な音楽表現とは？ 第1回～第6回までの授業の中で発表してきたことをICTを活用し文字化してまとめ上げ、第8回の授業の中で総合的にグループ全体で発表できるようにする。</p> <p>第8回 発表とまとめ—グループで学習のまとめを発表する (ICTの活用を含む)</p>

	<p>【事前学習】 発表がスムーズに行けるよう準備する。(1時間) 【事後学習】 発表の反省点を整理する。(1.5時間)</p> <p>全グループがICTを活用して「就学前の子どもたちに送る音楽表現」と題し発表する。 グループ全員が協働して発表が成功するように役割分担が来ているか、それぞれのグループ発表を通して学びを深め総括へと繋げて行く。</p> <p>定期試験は実施しない。</p>
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="radio"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="radio"/> 3) ICTの活用 <input type="radio"/> 4) 初年次教育 <input type="radio"/> 5) 実践的PBL <input type="radio"/>
テキスト	幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼稚園教育要領解説(平成30年2月告示 文部科学省、フレーベル館)
参考書	幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成29年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 保育所保育指針解説(平成30年2月 厚生労働省、フレーベル館) 実践心ふれあう子どもと表現(松家まきこ・鈴木範之編 株式会社みらい) その他、必要に応じて適宜資料を配付する。
評価方法	ポートフォリオ及び全授業の学びの過程(60%)、まとめの発表(20%)、受講態度(20%)
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 ※遠隔授業の場合、ルーブリックについて変更を行う場合がある。詳細は講義内で説明。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀(A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優(B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良(C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可(D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可(F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠(K) -：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【 】1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【○】2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 【 】3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【○】4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【○】5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(保育)の学位を授与する。
履修上の注意	毎回グループで討議し課題解決と発表が行われるので、積極的な姿勢で関わり、向上心を持った保育者を指すため、明るく、楽しく表現することの喜びに満ち溢れた姿勢を求める。
オフィスアワー	毎回の授業時後行う。
課題に対するフィードバック方法	Teamsを活用して、質問は受け付ける。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	1年次	1単位 (0-2)	専門科目 必修科目
担当教員			
佐久本 邦華			
授業形態：演習／遠隔授業の可能性あり	ナンバリング：EET3131116		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身につける。</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：幼児の表現の姿や、その発達を理解する。また、表現を生成する過程について理解する。 技能の観点：色と形・身体・音などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学び、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。また、その表現活動を展開するための実践力を身につける。 態度の観点：協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。</p>
授業の概要	<p>幼児にとって「表現」とは何かについて考える。ICT機器を活用し、幼児の表現行為を観察し、楽しさを生み出す要因を読み取る。また、自然・素材・生活・他者・自分との対話を通して生成される表現活動について理解を深める。さらに、色と形・身体・音などが融合する活動を通し、表現活動の展開について学ぶ。</p>
授業計画	<p>第1回 「表現」の源に出会う（ICTの活用） 表現とは何か。心が動くことにより身体が動く、その往還が表現行為につながることを本科目を通して体験的に理解する。また、「伝えあうー受け止め合う」を通して、表現の生成過程を分析的に捉え、領域「表現」のねらい及び内容について理解する。 【事前学習】 幼稚園教育要領第2章第2節 感性と表現に関する領域「表現」、およびテキスト第8章を読んでおく（1時間） 【事後学習】 活動の振り返りをまとめる（1時間30分）</p> <p>第2回 自然との対話から生まれる色とかたち 身近な自然やその素材の特性に触れ、感じ、楽しむことを通して、イメージを豊かにする。自然や自然物（木の実や葉っぱ、小石、土、水、太陽、風、影など）を五感を通して感じ、色や形で表現する。また、子どもたちの表現と、その活動の展開について考える。 【事前学習】 テキスト第3章を読んでおく（1時間） 【事後学習】 活動の振り返りをまとめる（1時間30分）</p> <p>第3回 素材との対話から生まれる色とかたち 身近な素材に身体の諸感覚を通じて触れ、素材と対話し、その特性を生かして様々な表現を体験することを通して、幼児の表現活動を展開する可能性を探る。 【事前学習】 テキスト第3章を読んでおく（2時間） 【事後学習】 活動の振り返りをまとめる（2時間）</p> <p>第4回 生活環境との対話から生まれる色とかたち 身近な環境と十分に関わる中で美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事などに出会い、そこから得た感動を共有し、様々に表現することを体験する。雨や風の音、車の音や話し声、動物、昆虫、草花の形や色など、身近な自然や生活環境の中にある音、形、色などに気づくことのできる表現活動について考える。 【事前学習】 テキスト第3章を読んでおく（2時間） 【事後学習】 活動の振り返りをまとめる（2時間）</p> <p>第5回 幼児の表現と対話 幼児の表現行為とそれに伴う痕跡（作品）を見る。幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感するとともに、心身の発達や環境その他の背景を踏まえ、分析的に読み取る方法を学ぶ。また、子ども同士により豊かな表現活動へと繋げていくための鑑賞について考える。 【事前学習】 テキスト第2章・第4章を読んでおく（2時間） 【事後学習】 活動の振り返りをまとめる（2時間）</p> <p>第6回 文化との対話 文化や伝統芸能・工芸を通して、地域で育まれてきた色や形について考える。また、動画等を通して伝統芸能のリズムや踊りなどについても触れ、それらの表現活動へ取り入れ方や展開について考える。 【事前学習】 配布された資料を読んでおく（2時間） 【事後学習】 活動の振り返りをまとめる（2時間）</p> <p>第7回 身体を素材として捉えるー身体の輪郭から生まれる色とかたち 自らの身体を素材としてとらえ、色と形で表現する。感覚あそびや輪郭をとらえる遊びを通して、自分というものを確認し、自己を表現することについて考える。 【事前学習】 配布された資料を読んでおく（2時間） 【事後学習】 活動の振り返りをまとめる（2時間）</p> <p>第8回 「表現」について改めて考える 本科目の製作活動、協働作業、鑑賞活動を通し、学生個々の多様な見方や考え方、表現のありかたを共感的に受け止め協働することで、より豊かな表現につなげていく過程を体験してきた。最後にコミュニケーションを含めた表現活動の意義について考える。 【事前学習】 テキスト第8章を読んでおく（2時間） 【事後学習】 活動の振り返りをまとめる（2時間） 定期試験は実施しない。</p>

授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/> 5) 実践的PBL <input type="checkbox"/>
テキスト	幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 幼稚園教育要領解説（平成30年3月告示 文部科学省、フレーベル館） ワークシートで学ぶ子どもの造形表現第2版（北沢昌代・畠山智宏・中村光絵著 開成出版） その他、必要に応じて適宜資料を配付する。
参考書	ワークシートで学ぶ子どもの造形表現第2版（北沢昌代・畠山智宏・中村光絵著 開成出版） 保育内容領域表現 日々わくわくを生きる子どもの表現（堂本真美子編 わかば社） 実践心ふれあう子どもと表現（松家まきこ・鈴木範之編 株式会社みらい） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 保育所保育指針解説（平成30年3月告示 厚生労働省、フレーベル館）
評価方法	作品や振り返りコメントなど（70%）、最終発表と最終レポート（30%）
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 ※遠隔授業の場合、ルーブリックについて変更を行う場合がある。詳細は講義内で説明。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) -：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<input type="checkbox"/> 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 <input type="checkbox"/> 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 <input type="checkbox"/> 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 <input type="checkbox"/> 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 <input type="checkbox"/> 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	製作演習の場合、各自準備物が必要なものがあります。詳しくはオリエンテーション時に説明します。
オフィスアワー	佐久本：毎週月曜日3限目 佐久本研究室（北研2-1） ※遠隔授業期間においては、メール、Microsoft Teams等を利用し相談を行う（メールアドレス：sakumoto.k@ocjc.ac.jp）
課題に対するフィードバック方法	演習に関しては、課題完成後の鑑賞の時間を用い、フィードバックを行う。 指導案や小レポートなどの提出物に関しては、採点后学生へ返却する。

講義科目名称： 保育内容総論

授業コード：

英文科目名称： Introduction to Childcare Service

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	1年次	2単位 (0-2)	選択科目 (幼免・保育士：必修)
担当教員			
平中 尚子・糸洲 理子			
授業形態：演習 遠隔授業の可能性あり。	ナンバリング：EEM3231111		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 保育・幼児教育についての基礎的な理解</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点 ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえ、保育の基本や指導の考え方について説明することができる。 技能の観点 ・乳幼児の発達や学びの過程を踏まえて、指導案を作成することができる。 ・保育場を想定して、模擬保育を実践することができる。 態度の観点 ・他者と協働して討論に参加することができる。</p>
授業の概要	<p>幼児教育・保育の基本や指導の考え方について学ぶ。特に、幼児教育・保育においては、遊びや環境を通して総合的に指導をすることを理解し、実践に必要な知識を身に付ける。さらに、遊びの中で子どもがどのような経験をしているかについて学び、3つの視点・5領域におけるねらい及び内容とのつながりを理解する。乳幼児教育施設での勤務経験を有する担当教員が、実務経験を活かし、保育の基本や指導の考え方について具体的な事例や教材等を踏まえながら講義する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要及び評価方法、教育・保育の全体構造の理解 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 講義の概要、評価方法について理解する。教育基本法や学校教育法に基づいて、教育が行われることや児童福祉法に基づいて保育が行われることを理解し、教育・保育の全体的構造を理解する。 【事前学習】保育・幼児教育について、テキスト第1章1節や幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基に復習する。(2時間) 【事後学習】教育・保育の全体構造について、まとめる。(2時間)</p> <p>第2回 保育・幼児教育における5領域のねらい及び内容のつながり ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 保育・幼児教育における5領域のねらいや内容、養護と教育の一体について理解する。 【事前学習】テキスト第1章2節や幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基に、5領域のねらいや内容、養護と教育が一体となって展開する保育について調べ、まとめる。(2時間) 【事後学習】保育・幼児教育における5領域のつながりや養護と教育が一体となって展開する保育について、まとめる。(2時間)</p> <p>第3回 保育内容の歴史的変遷 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 6領域(健康、社会、自然、言語、音楽リズム、絵画製作)から5領域(健康、人間関係、環境、言葉、表現)への変遷について理解する。5領域の充実した内容への変遷、保育の目標、領域と保育内容について理解する。 【事前学習】テキスト第1章3節を読み、保育内容の変遷と幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領保育・幼児教育の関連について調べ、まとめる。(2時間) 【事後学習】幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基に、現在の保育内容について、まとめる。(2時間)</p> <p>第4回 子どもの遊びや生活と保育内容：3歳未満児の発達と子ども理解 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 3歳未満児の発達について理解し、遊びや生活に基づいた子ども理解を学ぶ。 【事前学習】テキスト第2・3章を読み、0・1・2歳児の発達と生活について調べ、まとめる。(2時間) 【事後学習】3歳未満児の育ちと保育内容について、まとめる。(2時間)</p> <p>第5回 子どもの遊びや生活と保育内容：3歳以上児の発達と子ども理解 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 3歳以上児の発達について理解し、遊びや生活に基づいた子ども理解を学ぶ。 【事前学習】テキスト第2・3章と幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基に3歳以上児の発達と生活を調べ、まとめる。(2時間) 【事後学習】3歳以上児の発達と保育内容について、まとめる。(2時間)</p> <p>第6回 遊びを通した総合的な指導 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 保育・幼児教育における5領域のねらいや内容を理解し、遊びを通しての総合的な指導について理解する。 【事前学習】テキスト第2章や幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基に、遊びを通した総合的な指導について調べ、まとめる。(2時間) 【事後学習】遊びを通した総合的な指導について、まとめる。(2時間)</p> <p>第7回 環境を通して行う教育・保育(視聴覚教材の活用) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 環境を通して行う教育・保育の基本について理解する。 【事前学習】テキスト第5章や幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・</p>

第8回	<p>保育要領を基に環境を通して行う教育・保育について調べ、まとめる。(2時間) 【事後学習】環境を通して行う教育・保育について、まとめる。(2時間)</p> <p>保育・幼児教育における教育課程、保育の全体的な計画、指導計画 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>保育・幼児教育の根拠法令(教育基本法、学校教育法、児童福祉法)及び告示の意味を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた教育課程、保育の全体的な計画、指導計画の作成について理解する。 【事前学習】テキスト第6章や幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基に、保育・幼児教育におけるカリキュラムについて調べ、まとめる。(2時間) 【事後学習】教育課程・保育の全体的な計画・指導計画について、まとめる。(2時間)</p>
第9回	<p>支援を要する子どもの理解とクラス運営 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>支援を要する子どもについて、個々の状態に応じて指導内容や指導方法を工夫することの必要性やクラス運営の在り方について理解する。 【事前学習】テキスト第7章や幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領やその他の文献を調べて、支援を要する子どもの指導について、まとめる。(2時間) 【事後学習】支援を要する子どもの理解とクラス運営について、まとめる。(2時間)</p>
第10回	<p>幼児期の教育と児童期の教育の接続・連携 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>幼児期と児童期への接続において、幼児期にふさわしい生活や遊びを通じた活動が児童期以降の生活や学習の基盤育成へつながることについて理解する。 【事前学習】幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基に、幼児期の教育と児童期の教育について、現状・問題点・課題・接続の方法について調べ、まとめる。(2時間) 【事後学習】幼児教育における見方・考え方と児童期への接続の視点(資質・能力と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿)について、まとめる。(2時間)</p>
第11回	<p>保育内容と計画のつながり ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>保育計画の作成について理解する。乳幼児の発達を理解し、生活や遊びによる保育内容とのつながりをふまえて部分案作成を検討する。 【事前学習】保育内容(活動名・対象年齢・ねらいや内容・環境構成・活動の流れ・保育者の援助/配慮・他)を踏まえて、部分案の提案資料を作成してくること。(2時間) 【事後学習】グループで保育内容(活動名・対象年齢・ねらいと内容、環境構成、活動の流れ、保育者の援助・配慮など)を踏まえて、部分指導案を作成する。(2時間)</p>
第12回	<p>模擬保育の検討：指導案作成(グループ協議) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>乳幼児の発達を理解し、生活や遊びによる保育内容とのつながりをふまえて模擬保育案(部分案)をグループで作成する。 【事前学習】グループで、模擬保育案の内容を検討しておくこと。(2時間) 【事後学習】グループで保育内容(活動名、対象年齢、ねらいと内容、環境構成、活動の流れ、保育者の援助・配慮など)を踏まえて、部分指導案を作成する。(2時間)</p>
第13回	<p>模擬保育(発表) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>グループごとに模擬保育を実践する。 【事前学習】模擬保育について検討し、グループで役割を決め準備する。(2時間) 【事後学習】模擬保育の保育内容(ねらいと内容、環境構成、活動の流れ、保育者の援助・配慮など)を踏まえて、自己の指導案を作成する。(2時間)</p>
第14回	<p>模擬保育の振り返りと省察 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>模擬保育を振り返り、省察する。 【事前学習】テキストや幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基に、保育の計画、実践、省察、評価、改善について確認する。(2時間) 【事後学習】模擬保育について、省察、評価、改善を行い、まとめる。(2時間)</p>
第15回	<p>多様化する社会と保育 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>保育を取り巻く社会状況について理解し、これからの保育実践について考える。 【事前学習】テキスト第9・10章を基に、社会の状況について調べ、まとめる。(2時間) 【事後学習】これからの保育実践に必要なことについて、まとめる。(2時間)</p>
第16回	なし
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>前田和代 編著 2022年 『新・保育内容総論 保育って、おもしろい』 教育情報出版 文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館</p>
参考書	<p>厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館</p>
評価方法	<p>課題50%, 模擬保育指導案作成20%, 模擬保育10%, 講義内課題10%, 討議10% これらを総合的に評価する。</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — : 出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授	<p>【○】1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。</p>

業科目の関連	<p>【 】 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>【 】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【 】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。</p> <p>【○】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	※課題の提出期日は厳守すること。
オフィスアワー	平中：毎週水曜日3限目 平中研究室（西研3-4） 糸洲：毎週木曜日2限目 糸洲研究室（西研3-8）
課題に対するフィードバック方法	課題や提出物は、評価後に返却する。

講義科目名称： 保育内容指導法（健康）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	1年次	1単位 (0-2)	選択科目 (幼免・保育士：必修)
担当教員			
ポドリヤク・ナタリヤ			
授業形態：演習／遠隔授業の可能性あり	ナンバリング：EEM3231215	旧科目名称：健康指導法	
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>授業のテーマ： 本授業では、領域「健康」を中心に、乳幼児の心と体の健康について理解し、子どもの心情・意欲・態度を育てる指導について学ぶことをねらいとする。</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている保育内容を踏まえ、保育者として必要な領域「健康」のねらい及び内容について理解を深める。2. 本来の子どもの健康についての基礎的な知識を身につける。 技能の観点：1. 乳幼児期の健康に関わる基本的な生活習慣に対する理解を深め、保育の場における適切な援助や指導ができる。2. 基本的な生活習慣を形成するための指導案を作成することができる。 態度の観点：1. 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。2. 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。</p>
授業の概要	<p>本授業では、幼稚園教育要領における領域「健康」のねらい、その内容と指導方法に関する理解を深めることを目的とする。具体的には、乳幼児の心身の健康と基本的な生活習慣に関する内容、身体活動に関する内容を指導するとともに、健やかな成長を育む保育方法を指導する。この授業を通じて、保育内容「健康」に関する具体的な保育計画作成（指導案）の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成、実施、改善し、保育構想の向上に取り組む。</p>
授業計画	<p>第1回 講義内容説明、子どもの「健康」とは 一領域「健康」のねらい及び内容の理解—*遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoft Teamsに掲載</p> <p>講義の内容、講義の進め方、評価方法等についてのオリエンテーションを行う。そして、「幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の領域「健康」のねらいと内容及び内容の取り扱いについて学習する。</p> <p>【事前学習】 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の領域「健康」のねらいと内容について教科書のpp. 1-18を学習する。(30分) 【事後学習】 今回の講義の内容をノート等にまとめておく。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第2回 子どもの基本的な生活習慣の形成*遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoft Teamsに掲載</p> <p>子どもの生活習慣が健康に及ぼす影響について知る。または、基本的な生活習慣の形成について理解し、模擬保育に向けて指導案の作成を行う。</p> <p>【事前学習】 教科書のpp. 28 - 39を読み、保育の現場で行われる子どもの生活習慣の指導方法に、どのようなものがあるか調べる。(30分) 【事後学習】 各グループでテーマを決めて、模擬保育の準備と指導案の作成を行う。(30分)</p> <p>第3回 第3回：基本的な生活習慣の形成を支える援助（教材研究・準備）*遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoft Teamsに掲載</p> <p>基本的な生活習慣の形成について模擬保育の実践に向けて、指導案を作成する。そして、グループで話し合いし、模擬保育の内容をまとめる。</p> <p>【事前学習】 各グループで模擬保育に向けて、対象やテーマを決めて、指導案作成をする。(30分) 【事後学習】 模擬保育の実践に向けて、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第4回 基本的な生活習慣の形成を支える援助（模擬保育実践と評価）*遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoft Teamsに掲載</p> <p>基本的な生活習慣の形成について模擬保育を実践する。その後、各グループで評価を行い、その内容も踏まえながら生活習慣の形成指導方法等についてまとめる。</p> <p>【事前学習】 各グループで模擬保育に向けての準備と練習を行う。(30分) 【事後学習】 講義中の発表について、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第5回 運動遊びの意義と実践 *遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoft Teamsに掲載</p> <p>乳幼児期の運動発達の特徴について理解する。また、情報機器も用いながら、子どもの動作の特徴を観察し、なぜ子どもの発達に運動遊びが必要なのかについて理解する。</p> <p>【事前学習】 教科書のpp. 57 - 68を読み、運動遊びが子どもにもたらす効果について調べる。(30分)</p>

第6回	<p>【事後学習】なぜ幼児期には体育指導ではなく、「運動遊び」が必要とされているのか各自で調べ、整理しておく。(30分) 運動遊びの指導法(各ステップ・リズム遊び) *遠隔授業の場合:講義資料をMicrosoft Teamsに掲載</p>
第7回	<p>リズム遊び・表現あそび・各ステップなどの運動遊びについて実際に体験する。指導法や援助法を習得する。</p> <p>【事前学習】教科書のpp. 57 - 68を読み、保育現場ではどのようなリズム遊びを取り入れられているかについて調べる。(30分) 【事後学習】講義中のリズム遊びやリズムダンスで用いられたステップを復習する。また、発表された内容の他にどのようなフォークダンスがあるか調べる。(30分) ルールある運動遊びの指導法(かけっこ遊び・鬼ごっこ遊び等) *遠隔授業の場合:講義資料をMicrosoft Teamsに掲載</p>
第8回	<p>鬼ごっこ・かけっこ、ジャンケン遊び等の種類について紹介する。ルールのある運動遊びについて実際に体験してみる。指導法や援助法を習得する。</p> <p>【事前学習】教科書のpp. 100-116を読み、各年齢の子どもたちにあったルールのある遊びの種類・展開方法について学習しておく。(30分) 【事後学習】講義中に学んだ運動遊びの他にどのような種類の遊びがあるか調べる。(30分) 身近な物を使用した遊びの指導法 *遠隔授業の場合:講義資料をMicrosoft Teamsに掲載</p>
第9回	<p>新聞、ビニール袋、風船等の身近にある素材を使った運動遊びの種類について紹介する。身近なものを使用した遊びなどの運動遊びについて実際に体験してみる。指導法や援助法を習得する。</p> <p>【事前学習】身近な素材で、幼児の運動遊びで使うことのできる遊具の一つを作成しておく。(30分) 【事後学習】講義中に学んだ運動遊びについて、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。また、紹介された運動遊びの他にどのような種類の身近なものを使用した遊びがあるか調べる。(30分) 運動遊びの指導実践(模擬保育実践の資料研究と準備)(ビデオ視聴) *遠隔授業の場合:講義資料をMicrosoft Teamsに掲載</p>
第10回	<p>具体的な保育場面を想定した指導案の作成について学ぶ。その他、指導案に基づいて行う運動遊びの展開方法について理解を深め、グループで協力し、模擬保育の準備を行う。</p> <p>【事前学習】自分の担当する運動遊びについて調べ、どのような遊びを発表するか考える。指導案を準備する。(30分) 【事後学習】講義中の発表について、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。(30分) 運動遊びの指導実践(模擬保育実践と評価) *遠隔授業の場合:講義資料をMicrosoft Teamsに掲載</p>
第11回	<p>具体的な保育場面を想定した指導案の作成について学ぶ。その他、指導案に基づいて行う運動遊びの展開方法について理解を深め、模擬保育の実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。</p> <p>【事前学習】自分の担当する運動遊びについて調べ、どのような遊びを発表するか考える。指導案を準備する。(30分) 【事後学習】講義中の発表について、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。また、発表された内容の他にどのような遊びがあるか調べてみる。(30分)</p>
第12回	<p>大型遊具の遊び(マット、鉄棒、跳び箱等) *遠隔授業の場合:講義資料をMicrosoft Teamsに掲載</p> <p>大型遊具の遊びとして、マット、鉄棒、跳び箱の課題の紹介と練習を行う。用具の安全な使用の仕方、準備・片付けについても学習する。</p> <p>【事前学習】マット、鉄棒、跳び箱などの大型遊具の遊びは現場でどのように実践されているか文献等で調べる。(30分) 【事後学習】大型遊具の遊びの補助の重要なポイントについて考えをまとめる。(30分) 大型遊具を使用したサーキット遊びの作成実践 *遠隔授業の場合:講義資料をMicrosoft Teamsに掲載</p>
第13回	<p>マット(前転・後転・側転)、鉄棒(前方支持回転、逆上がり)、跳び箱(開脚とび)の試験を行い、それぞれの活動についてその評価の視点と方法について学ぶ。また、大型遊具を使用したサーキット遊びを作成する。</p> <p>【事前学習】。大型遊具を使用したサーキット遊びにはどのようなものがあるのかについて調べておく(30分) 【事後学習】幼児の発達を踏まえたうえで、サーキット遊びの指導法(見立ての工夫)と補助の重要なポイントをまとめる。(30分) 多様な動きの体験を促す援助(リズム体操) *遠隔授業の場合:講義資料をMicrosoft Teamsに掲載</p>
第14回	<p>年齢別のリズム体操の運動種類を紹介し、挑戦してみる。リズム体操の基本的な技と安全管理について学習する。グループではリズム体操の演技を作成し、発表を行う。</p> <p>【事前学習】リズム体操のねらいと運動種類にどのようなものがあるか調べる。(30分) 【事後学習】リズム体操の指導法と保育者の援助の重要なポイントについてまとめる。(30分) 多様な動きの体験を促す援助(小物を使用した創作ダンス) *遠隔授業の場合:講義資料を</p>

	<p>Microsoft Teamsに掲載 年齢別の創作ダンスの基本的なステップを紹介し、挑戦してみる。創作ダンスの基本的な技と安全管理について学習する。グループでは創作ダンスの演技を作成し、発表を行う。</p> <p>【事前学習】創作ダンスのねらいと基本的なステップにどのようなものがあるか調べる。(30分) 【事後学習】創作ダンスの指導法と保育者の援助の重要なポイントについてまとめる。(30分)</p> <p>第15回 領域『健康』と小学校教育とのつながり*遠隔授業の場合：講義資料をMicrosoft Teamsに掲載 保育所・幼稚園と小学校をつなぐことの意義とその具体的な内容について正しく理解し、グループワークを用いて、将来を想定した保育構想について考える。</p> <p>【事前学習】教科書のpp.157-166を読み、保幼小の連携として、どのような実践が行われているか調べる。(30分) 【事後学習】各自で、今後の保幼小の連携についてのアイデアを1つ以上あげる。(30分)</p> <p>第16回 定期試験 *遠隔授業の場合、レポートに変更して実施する。</p> <p>保育現場における運動遊びを指導する場合安全管理と補助の方法の実技テストを行う。</p> <p>【事前学習】運動遊び指導法と補助の方法を復習する。(30分)</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>重案智子・案見克夫（編集者）2020年『保育内容「健康」一遊びや生活から健やかな心と体を育むー』ミネル ブァ書房 文部科学省 2017年『幼稚園教育要領』フレーベル館 文部科学省 2018年『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省 2017年『保育所保育指針』 厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省2017年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館</p>
参考書	<p>文部科学省 2012年『幼児期運動指針』 日本発育発達学会2014年『幼児期運動指針実践ガイド』杏林書院 倉真智子・大森宏一2022年『子どもが育つ運動遊び』株式会社 みらい</p>
評価方法	<p>事前学習と振り返りコメントー50%、グループ活動（発表準備・発表の出来具合、指導案）ー50% *遠隔授業の場合：定期試験をレポートに変更して実施する。 レポート（50%）、授業内で実施する確認テスト（30%）、授業への参加度（20%）」</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 *遠隔授業の場合、評価方法を変更するため、ルーブリックについても変更あり。詳細は講義内で説明。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【○】2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を实践する態度を追求する。 【 】3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【 】4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【○】5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>講義だけではなく、指導案作成、模擬保育の実践も行います。 グループの活動も取り入れながら、授業をすすめます。 *遠隔授業の場合、Microsoft Teams等で資料や課題を必ず確認すること。また、授業開始時にはスマートフォンやPCで参加できるよう準備すること。</p>
オフィスアワー	<p>毎週月曜日 3限目 西研3-10研究室 *遠隔授業実施期間においては、メールおよびオンライン面談を行う。</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>課題、試験等は、評価して各自に返却します。</p>

講義科目名称： 保育内容指導法（人間関係）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	1年次	1単位 (0-2)	選択科目 (幼免・保育士：必修)
担当教員			
天願 順優			
授業形態：演習／遠隔授業の可能性あり	ナンバリング：EEM3231212	旧科目名称：人間関係指導法	
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 (1) 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針で示されている幼児教育・保育の基本を踏まえて、領域「人間関係」の特徴と目標、ねらい及び内容、内容の取扱いについて理解する。 (2) 乳幼児期の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる乳幼児教育施設での具体的な指導を想定した保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な、幼児が体験し身に付いていく内容と指導上の留意点を理解する。 技能の観点：ねらいや内容を踏まえた指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 態度の観点：模擬保育やロールプレイを通して実践を振り返り、保育を改善する視点を身に付ける。</p>
授業の概要	<p>幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に示されている領域「人間関係」のねらい及び内容、内容の取扱いについて理解する。また、乳幼児の姿から理論と実践が繋がった教育内容を理解させる。</p> <p>幼児教育施設において勤務経験を有する担当教員が、その実務経験を活かし、幼稚園教育要領および保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等に示された領域「人間関係」の内容について、具体的な例を紹介する。さらに、教材の活用および指導法等について解説する。</p> <p>また、各々領域「人間関係」のねらいや内容を踏まえた活動を考え指導案を作成する。その指導案についてグループで検討し、保育技術を培うために模擬保育をする。その模擬保育についてグループの仲間と振り返り、保育を改善していく術を身に付ける。</p>
授業計画	<p>第1回 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育要領における領域「人間関係」の全体全体像をつかむ（遠隔の場合：Microsoft Teams を利用） 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育要領における領域「人間関係」の全体全体像をつかむ</p> <p>【事前学習】 各指針、要領の人間関係の領域を読んで理解しておくこと。（30分）</p> <p>【事後学習】 領域「人間関係」について学んだことをまとめる。（30分）</p> <p>第2回 保育内容の領域「人間関係」の特質と保育者の役割（遠隔の場合：Microsoft Teams を利用） 保育内容の領域「人間関係」の特質と保育者の役割について</p> <p>【事前学習】 幼児教育のガイドランを通して、領域「人間関係」の特徴と目標、ねらいや内容について、調べまとめておくこと。（30分）</p> <p>【事後学習】 領域「人間関係」の特徴と目標、ねらいや内容との関連性（繋がり）について、まとめる（30分）</p> <p>第3回 0～2歳児の育ちに沿った必要な援助と環境構成を考える（遠隔の場合：Microsoft Teams を利用） 0～2歳児の育ちに沿った必要な援助と環境構成について</p> <p>【事前学習】 テキストp44～p52まで読み、乳児期の発達と信頼関係について、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。（30分）</p> <p>【事後学習】 乳児期における人間関係の発達について、まとめる。（30分）</p> <p>第4回 3～5歳児の育ちに沿った必要な援助と環境構成を考える（遠隔の場合：Microsoft Teams を利用） 3～5歳児の育ちに沿った必要な援助と環境構成について</p> <p>【事前学習】 テキストp53～p60までを読み、乳幼児期の発達と領域「人間関係」について、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。（30分）</p> <p>【事後学習】 3～5歳児の育ちに沿った必要な援助と環境構成について、まとめる。（30分）</p> <p>第5回 いざこざと保育者の援助（遠隔の場合Microsoft Teams を利用） いざこざと保育者の援助について</p> <p>【事前学習】</p>

テキスト p 61～ p 67まで読み、いざこざと保育者の援助について、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。(30分)

【事後学習】

いざこざと保育者の援助について、まとめる。(30分)

第 6 回

自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方について(遠隔の場合:Microsoft Teams を利用)

自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方について

【事前学習】

テキスト p 68～ p 77まで読み、自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方について、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。(30分)

【事後学習】

自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方について、まとめる。(30分)

第 7 回

きまりをめぐる様々な幼児の葛藤と援助(遠隔の場合:Microsoft Teams を利用)

きまりをめぐる様々な幼児の葛藤と援助について

【事前学習】

幼稚園教育要領解説、領域「人間関係」の〔ねらい〕と〔内容〕を読み、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。(30分)

【事後学習】

きまりをめぐる様々な幼児の葛藤と援助について、まとめる。(30分)

第 8 回

ルールのある遊びと援助について(遠隔の場合:Microsoft Teams を利用)

ルールのある遊びと援助について

【事前学習】

幼稚園教育要領解説の領域「人間関係」の〔ねらい〕と〔内容〕を読み、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。(30分)

【事後学習】

ルールのある遊びと援助について、まとめる。(30分)

第 9 回

個と集団の育ちについて(遠隔の場合:Microsoft Teams を利用)

個と集団の育ちについて

【事前学習】

テキスト p 153～ p 159まで読み、個と集団の育ちについて、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。(30分)

【事後学習】

個と集団の育ちについて、まとめる。(30分)

第 10 回

協同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育の展開について(遠隔の場合:Microsoft Teams を利用)

協同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育の展開について

【事前学習】

テキスト p 187～ p 192まで読み、協同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育の展開について、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。(30分)

【事後学習】

協同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育について、まとめる。(30分)

第 11 回

道徳性・規範意識を培う保育者の援助について(遠隔の場合:Microsoft Teams を利用)

道徳性・規範意識を培う保育者の援助について

【事前指導】

各自で道徳性・規範意識を培う保育者の援助について考え、まとめておくこと。(30分)

【事後指導】

グループで、事例内容(道徳性・規範意識を培う保育者の援助)を検討し、指針・要領を踏まえ、指導案を作成する。(30分)

第 12 回

社会生活との関わりと保育者の役割について(遠隔の場合:Microsoft Teams を利用)

社会生活との関わりと保育者の役割について

【事前学習】

テキスト p 196～ p 201まで読み、社会生活との関わりと保育者の役割について、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。(30分)

【事後学習】

社会生活との関わりと保育者の役割について、まとめる。(30分)

第 13 回

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をふまえた保幼小の接続について(遠隔の場合:Microsoft Teams を利用)

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をふまえた保幼小の接続について

【事前学習】

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をふまえた保幼小の接続について調べ、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。(30分)

	<p>【事後学習】 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をふまえた保幼小の接続について、まとめる。(30分) 領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題について(遠隔の場合:Microsoft Teams を利用) 領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題について</p> <p>【事前学習】 テキストp 202～p 205まで読み、領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題について、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。(30分)</p> <p>【事後学習】 領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題について、まとめる。(30分) 領域「人間関係」をめぐる諸問題とまとめ(遠隔の場合:Microsoft Teams を利用)</p> <p>現代社会から見える、人間関係に関する諸問題について</p> <p>【事前学習】 現代社会から見える「人間関係」に関する諸問題について、考えてくること。(40分)</p> <p>【事後学習】 領域「人間関係」に関する諸問題から見える幼児教育の在り方について、まとめる。(20分) 第16回 定期試験(遠隔の場合:Microsoft Teams を利用)</p>
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/> 5) 実践的PBL <input type="checkbox"/>
テキスト	無藤隆(監修)/岩立京子(編集代表)2018『新改訂 事例で学ぶ保育内容<領域>人間関係』
参考書	厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 文部科学省 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 2017年 文部科学省 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 2017年
評価方法	試験60%、課題40%で総合的に評価する。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀(A) 90点以上:到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優(B) 80点～90点未満:到達目標を十分に達成している 良(C) 70点～80点未満:到達目標をある程度達成している 可(D) 60点～70点未満:到達目標を最低限達成している 不可(F) 60点未満:到達目標を達成していない 欠(K) - :出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<input type="checkbox"/> 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 <input type="checkbox"/> 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 <input type="checkbox"/> 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 <input type="checkbox"/> 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 <input type="checkbox"/> 5. 学則に定める修業年限を満了し、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(保育)の学位を授与する。
履修上の注意	領域「人間関係のねらい、内容、内容の取扱い」他の課題を課す。
オフィスアワー	質問などがあればメールで対応します。
課題に対するフィードバック方法	予習・復習(領域「人間関係のねらい、内容、内容の取扱い」・事前事後学習内容)の課題を課す。課題は、評価し授業内に返却します。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前・後期	1年次	1単位 (0-2)	選択科目 (幼免・保育士：必修)
担当教員			
新城 友紀			
授業形態：演習／遠隔授業の可能性あり	ナンバリング：EEM3231216	旧科目名称：音楽表現指導法	
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 音楽表現の基礎技術の習得と教材研究</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：音楽表現に関する基礎的知識を、理解することができる。 技能の観点：演習や教材研究を通し、音楽表現に必要な技能を身につける。 態度の観点：積極的に授業に参加し、グループで協力して取り組める。</p>
授業の概要	<p>身体を通して音楽を感じ、考え、表現することや、音楽表現に必要な技術とその方法論を学ぶ。また、幼児教育現場や保育現場で活用できる手遊びや歌遊び、音楽の身体創作表現など、具体的な教材研究を踏まえ、指導案作成や模擬保育を通して発展的、総合的に指導の工夫ができるようにする。更に、これらを活かし、積極的な授業への参加とグループでの活動や発表を通し、歌を歌ったり楽器などを用いて「表現」の楽しさを感じられるようにする。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、領域「表現」について ・「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園・保育要領」、「保育所保育指針」の領域「表現」について学ぶ。 ・イントロダクションでボイス・アンサンブルを学ぶ。 【事前学習】「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園・保育要領」、「保育所保育指針」の領域「表現」についての部分を読む。(30分) 【事後学習】ボイス・アンサンブルで学習したリズムを復習する。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第2回 リトミック音楽教育の概要 ・ダルクローズ教育法について：リトミックの発祥地である、スイスのリトミック音楽教育をDVD学習を通して学び、リトミックの原点を知る。(ICTの活用) ・DVD学習の感想を提出する。 【事前学習】リトミックについて図書館の本等で調べる。(30分) 【事後学習】リトミックの他にも様々な音楽教育があることを本やインターネットで調べる。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第3回 拍の理解 ・基礎リズムのリズム打ちとステップ(歩く、ゆっくり歩く、走る、スキップ)を獲得する。 ・ボディー・パーカッションを学ぶ。 【事前学習】ボディー・パーカッションにはどのようなものがあるか調べ、インターネット等で見たり聞いたりする。(30分) 【事後学習】基礎リズムを復習し、リズム打ちとステップを確実に身につける。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第4回 リズムパターンとフレージング ・リズムパターンとフレージングについて幼児曲を活用して学ぶ。 ・ボディー・パーカッションを学ぶ。 ・手遊び、歌遊びを学ぶ。 【事前学習】手遊びもしくは歌遊びを、少なくとも一つ習得する。(30分) 【事後学習】ボディー・パーカッションで学んだ様々なリズムを、正確に叩けるよう復習する。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第5回 教材研究①楽曲の音楽的イメージによる身体表現 ・ある楽曲を聞き、音楽の強弱やテンポ、楽曲の展開などについて考え、各グループで創意工夫し発表する。(ICTの活用) ・各グループのパフォーマンスを相互に評価し合い、ディスカッションする。 ・手遊び、歌遊びを学ぶ。 【事前学習】手遊びもしくは歌遊びのレパートリーを増やす。(30分) 【事後学習】様々な楽曲を聞き、音楽的イメージを考える。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第6回 リズムパターンとポリリズム ・リズムパターンとポリリズムについて学ぶ。 ・ポリリズムのリズム打ちやステップを行う。 【事前学習】ポリリズムについて、本やインターネットで調べる。(30分) 【事後学習】ポリリズムを正確に叩けるよう復習する。(30分) ※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>第7回 教材研究②拍子感とアナクルーシス ・拍子感とアナクルーシスについて、簡易楽器やボールを使って学ぶ。 ・音楽的な拍子感(4拍子・3拍子・2拍子)について、身体で理解し獲得する。 ・アナクルーシスについて、音楽でいかに重要か身体を通して理解し獲得する。 【事前学習】テキスト内の楽曲数曲に目を通し、どのような拍子があるか考察する。(30分) 【事後学習】拍子の復習として、異なる拍子の楽曲を歌うなどし理解を深める。(30分)</p>

第8回	<p>※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>教材研究③3拍子とカノン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぞうさん」、「エーデルワイス」など既成曲を歌唱しながら、3拍子を身体で理解し獲得する。 ・カノンについて学ぶ。 ・「うみ」を題材とし、小学校の音楽との学びの連続性について考える。 <p>【事前学習】3拍子の幼児曲を歌うもしくはピアノで練習する。(30分)</p> <p>【事後学習】友人と共に、カノンで歌うもしくはリズム打ちを行い、カノンを獲得する。(30分)</p>
第9回	<p>※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>教材研究④幼児曲を題材にした身体創作表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児曲を題材にして、各グループで音楽的身体創作表現を創意工夫して発表する。 ・各グループのパフォーマンスを相互に評価し合い、ディスカッションする。 <p>【事前学習】幼児曲を少なくとも1曲選択し、どのような表現ができるか考える。(30分)</p> <p>【事後学習】事前学習にて選択した楽曲で、事前学習とは異なる表現を考える。(30分)</p>
第10回	<p>※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>教材研究⑤合奏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な楽器の名称及び奏法を学ぶ。 ・合奏の題材を各グループで選択し、練習を踏まえて発表する。 <p>【事前学習】本やインターネットを通し、子どもが触れる楽器について調べる。(30分)</p> <p>【事後学習】合奏の練習と発表を踏まえ、楽器の名称及び奏法を復習し獲得する。(30分)</p>
第11回	<p>※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>模擬保育①手遊び、歌遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手遊びもしくは歌遊びを選曲し、模擬保育を想定したグループ発表をする。(学生のICT活用を含む) ・各グループの発表を相互に評価し合い、ディスカッションする。 <p>【事前学習】手遊びもしくは歌遊びを練習し確実に覚える。(30分)</p> <p>【事後学習】より多くの手遊びを習得できるよう練習する。(30分)</p>
第12回	<p>※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>指導案作成①指導案の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材研究①～⑤の題材から選択し、模擬保育の指導案をグループで作成する。 <p>【事前学習】これまでに行った教材研究①～⑤を復習する。(30分)</p> <p>【事後学習】指導案の完成と模擬保育の実施に向け、必要な準備や練習をする。(30分)</p>
第13回	<p>※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>指導案作成②指導案の完成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案を完成させ、模擬保育に向けグループで役割分担や練習をする。 <p>【事前学習】個人で行えるピアノなどの練習をする。(30分)</p> <p>【事後学習】模擬保育に向け、不足している物を確認し、練習をする。(30分)</p>
第14回	<p>※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>模擬保育②指導案を元に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成した指導案を元に、保育者役と子ども役にわかれグループで模擬保育を行う。 <p>【事前学習】指導案の流れを覚え、スムーズに模擬保育が行えるようイメージする。(30分)</p> <p>【事後学習】模擬保育の自己反省をまとめる。(30分)</p>
第15回	<p>※遠隔授業の場合：同時双方向型授業をMicrosoft Teamsを利用して実施。</p> <p>模擬保育の振り返り、まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループで行った模擬保育を振り返り、相互に評価し合いディスカッションする。 ・授業のまとめを行う。 <p>【事前学習】自己反省に加え、他のグループの模擬保育で気付いた点をまとめる。(30分)</p> <p>【事後学習】これまでの学習を振り返り、模擬保育の反省を含めたレポートを提出する。(30分)</p>
第16回	なし
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組【○】第5.9.10.11.12.13.14回の授業において、グループで協力して取り組む。</p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目</p> <p>3) ICTの活用</p> <p>4) 初年次教育</p> <p>5) 実践的PBL</p>
テキスト	<p>文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館</p> <p>文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館</p> <p>鈴木恵津子 富田英也 監修・編著 2015年 『改訂 ポケットいっぱいの子どものうた 実践 子どものうた 簡単に弾ける144選』 教育芸術社</p> <p>必要に応じて適宜コピー資料を配付する</p>
参考書	<p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館</p> <p>必要に応じて適宜資料を配付する</p>
評価方法	<p>①受講者の発表30% (教材研究①～⑤への取り組みと発表の参加度を、グループ課題により評価)</p> <p>②小テスト及びレポート課題30% (リズム唱、リズム打ち、リズムステップ、カノンの実技と、教材研究発表後の感想などを含むレポート課題を、個人課題により評価)</p> <p>③指導案作成及び模擬保育25%</p> <p>④受講態度15%</p> <p>※遠隔授業の場合、発表等を動画提出に変更して実施する。</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>※遠隔授業の場合、評価方法を変更する可能性があるため、ルーブリックについても同様。詳細は講義内で説明する。</p>

	<p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) — ：出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。</p> <p>【○】 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>【 】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【 】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。</p> <p>【○】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>軽装、室内シューズで受講すること。</p> <p>※遠隔授業の場合、Microsoft Teams等で掲示する説明や課題を必ず確認すること。同時双方向型授業を実施する際は、授業開始時にはスマートフォンやPCで参加できるよう準備すること。</p>
オフィスアワー	<p>毎週○曜日○限 新城研究室（北研3-1）にて</p> <p>※遠隔授業実施期間においては、メールおよびオンライン面談を行う。</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>課題やプリントは、評価して返却する。</p>